美歴だより

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.16

CONTENTS

諫早市美術・歴史館だより

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	3
いさはやの生活	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	8

左上：土偶（西常盤貝塚出土）　右下：現川焼（刷毛地藤蝶文皿）

Kancho no tsubuyaki

館長のつぶやき

言葉は見るもの？聞くもの？

▼高齢者になったことが原因ではないが、テレビ、新聞、雑誌などメディアが使用する『ことば』が気になりだした。というより、よく解らないものが異常なほどに増えている気がする。カタカナ語、省略語、接着合成語、そして造語等々、情景や意志等を表現する言語が多角化しているようだ。かつて某首相の発言を言語明晰（めいせき）、意味不明と揶揄（やゆ）されたことがあったが、＜要は、ソギャンコトバ、ヨカケン、いちいち詮索せんでもヨカヨ！＞と言われそうだが、読み書き算盤で鍛えられた高齢者にとって、＜ああ、そうですか＞では済まされない。妙な意地があるためであろうか。若い方々の使う言葉が「暗号」のような気がし、理解できない中で生きねばならないのは何となく辛い。時代の進展に取り残されている感がするからだ。

▼「目は口ほどにものを言い」(孟子)、「賢者は聞き、愚者は語る」(ソロモン王)など名言、逸話を引くまでもなく、「空気を読んで」伝わるものもあるが、そうでないものが増えた。近年のテレビでは例えば「シブ５時」「サラメシ」「アス魂」「Ｎステ」など略語が堂々と活字化している。ましてやブログ、インスタ映えなど伝達手段が言葉となり、見るものに変化している。時代の変化なのだろうか。そういえばマスコミも国会での発言でも横文字の使用が乱発？ハラスメント、ガイドライン、マニフェスト、パブリック・コメント、プロジェクト、ボランティア等々日本語に翻訳してもよいのにイメージが浮かばないものもある。勝手な理解で済ませてるが、もしかして小生の時代遅れ？耳学というか聞いてて解るものをもっと残したいものだ。

▼先月、当美歴館で諫早出身の漫画家・草場道輝氏の原画展が開催された。高齢者にとって漫画と言えば横山隆一「フクちゃん」、長谷川町子「サザエさん」、近くでは東海林さだお「ショージ君」など４コマ漫画が記憶にあるが、いつの間にか漫画は劇画となり、長編化してきている。見ているだけで描かれている人物の心理状況が伝わってくる。敢えて言葉を示さなくとも言わんとすることが解る、すごい。

（『ファンタジスタ』草場道輝）

▼そういえば、最近、落語を映像化していることをテレビで知った。話芸というものはそれを聞いて自分なりの創造性を膨らませることに醍醐味、奥深さがあると思うが、どうなのだろう。白黒を明確にしなければならない言葉はイメージではなく見えることが肝要か。

▼聖書に「初めに言（ことば）があった」「万物は言によって成った」(ヨハネ１-１)とあるが、言葉は難しい。

（館長・鈴木勇次）

BIREKI・レポート

Vol.7　美歴の夏休み2018！

暑い夏が終わり、いよいよ秋らしくなってきました。

今年の美歴の夏休みは、人気サッカー漫画「ファンタジスタ」や週刊少年サンデーで連載中「第九の波濤」などで知られる諫早出身の漫画家・草場道輝先生の原画展、そしてコラボ企画として、V・ファーレン長崎展を開催しました！草場先生がV・ファーレン長崎のサポーターで、V・ファーレン長崎のユニフォーム姿の「ファンタジスタ」主人公・坂本轍平のイラストを描きおろしてくださったり、ヴィヴィくんが遊びに来てくれたりと、館内がサッカー一色で盛り上がった夏休みとなりました。

▼　草場道輝原画展(7/14-8/15)　7/14草場道輝先生サイン会

▼　V・ファーレン長崎展(7/28－8/24) 7/28ヴィヴィくんサイン会

みんなの応援メッセージで巨大ヴィヴィくんを作ろう！

期間中V・ファーレン長崎のみなさんへの応援メッセージを集めました。全部で782枚！縦1.7m×横2.5mの大きなヴィヴィくんが完成しました！ご協力してくださった皆様ありがとうございました！

メッセージはV・ファーレン長崎にプレゼントしました。

（福井遥香）

いさはやの生活

VOL.3　大山～共有財産～

特定の地域が所有し、その地域の人々が代々受け繋いできた共有の財産。その代表的なものが山です。入会山や村山、なかま山などいいますが諫早では大山というところがほとんどです。

電気やガスが普及していなかったころ、カマドでご飯を炊く、風呂を沸かす、囲炉裏にくべて暖を取るといったことには、ビャーラ（枝葉）や薪などの焚き物が欠かせず、その焚き物をとりに行く先が大山でした。大山は焚き物をとる場だったのですが、そればかりではありません。田には肥料として草をいれていましたが、大山はそうした草を刈る場でもあったのです。さらに家を建てるときには材木を安く払い下げてもらえます。大山はその地域の人の暮らしに結びついていたわけですが、たいていのところで規約をもうけていました。大山規約といい、大山が人々の生活を支える大切な共有財産だからこそ規約を設けて、大山に権利を持つ人たちで公平に平等に活用します。勝手に木や枝葉をとってよいのではありません。大山規約はなかなか厳しいもので違反すると罰をうけ、なかには大山への権利を失うこともありました。みんなの財産だからこそ厳しい規約なのです。

大山はまた、暮らし向きが苦しい人たちを助けてもきました。本野や湯野尾、本明、富川、目代で共有する大山では「ゴクナン山」といって、区画を決めて、炭焼きの場をそうした人たちに提供し、少しでも生活が良くなるようにといったことにも活用していたものでした。今ではゴクナン山を設けることはありませんが、昭和30年代あたりまでは申し込みが多かったものでした。

大山はそこの地域の人々が代々活用する一方、管理もまた受け継がれてきました。山は放っておくと荒れます、そこで山を見回り、管理する人が必要になります。そういった役割の人を「山留さん」などと呼び、大山に関わる地域から選んで、山を見回ってもらっていました。山留さんはどこにどういった木がどれくらいあるといったことなど熟知し、毎年、山総代や山議員さんらとともに山に合わせた活用の仕方や範囲を決めていたものです。

現代ではそうした活用するといったことも少なくなり、大山との関わりがやや薄くなっていますが、各地域ではそうした伝統を受け継ぎながらみんなの財産、大山を今も守っています。

（湯野尾町）

（川内知子）

いさはやの歴史　高城の史跡　Vol.6

伊東静雄詩碑（いとうしずおしひ）

高城の頂上への道の傍らに伊東静雄の詩碑があり、毎年3月の最終日曜日に「菜の花忌」が行われています。伊東静雄は明治39年(1906)上町(かんまち)で生れました。大村中学校(現大村高校)から佐賀高等学校(佐賀大学)を経て昭和4年京都帝大(現京都大学)文学部国文科を卒業後教師として、大阪府立住吉中学(現住吉高校)、阿倍野高校で教鞭をとりつつ詩作を行っていました。また、住吉高校の教え子には、ノーベル化学賞を受賞した下村脩氏もいました。

詩碑には、三好達治の揮毫による「**そんなに凝視(みつめ)るな**」の一文が刻まれています。「手尓(に)ふるる野花ハ(は)/それをつみ/花とみつ(づ)からを/ささへ(え)つゝ(つ)/歩ミ（み）をはこへ(べ)」

また、傍らにある詩碑建立の経緯が書かれた碑には、『伊東静雄詩碑／日本浪漫派の詩人として昭和初期詩壇に彗星の如く現れた伊東静雄は明治39年12月この諫早に生れました大村中学四年から佐賀高校文科に学び昭和4年3月京都帝文学部国文科を出ました以後大阪府立住吉中学後年阿倍野高校教諭の席に在って幾多珠玉の詩品を世におくり昭和28年3月大阪において病没致しました享年四十六才その著「わがひとに与ふる哀歌」「春のいそぎ」「反響」「伊東静雄詩集」などその清冷典雅なり詩の香氣は詩人の高潔孤絶なる芸術的人格と相俟ってここに郷土有識者並び全国文化人の欣慕協賛するところとなり碑の完成を見るに至りました手にふるる野花は／それをつみ／花とみづからを／さゝへつゝ／歩みをはこべ碑文揮毫は詩人三好達治氏／碑材帆崎石重量約六屯／昭和二十九年十一月／諫早文化協会』と刻まれています。

（大島大輔）

Vol.6

美術の部屋

野口典男　風・光・そして天主堂～島原編

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録が決定し、長崎県と熊本県天草市にある構成資産に注目が集まっています。野口は2000年（平成12年）ごろから離島や平戸などの教会を訪れ、天主堂風景の制作に着手しライフワークとしました。これらの作品のうち、原城跡を描いた作品を紹介します。

野口　典男（のぐち　のりお）　1937-2009（昭和12年～平成21年）

画家。諫早市生まれ。ほかの世界にない周囲の自然や人々の生活と一体となった天主堂の風景画を制作。

《原城跡》2003年
諫早市美術・歴史館蔵

《原城跡より島原を望む》2002年
諫早市美術・歴史館蔵

（松本恵美）

古文書の部屋

古文書の敬意表現

文書の書き出し・書き止め・日付・宛書・敬語などを含む、手紙の書き方や形式についての約束事を「**書札礼（しょさつれい）**」と言います。その中でも頻出するのが敬意表現です。ここでは二つの表現「**欠字**」（けつじ）と「**平出**」（へいしゅつ）について紹介します。

欠字（闕字）

貴人や敬意を払う相手の呼称や行動を表す語句の前に、一字または二字分の余白を空ける敬意表現。

例）

・願之通被　仰付被下候様　：願いの通り（貴人が）仰せ付けられ下され候様
・今般得　御賢慮：今般（貴人の）ご賢慮を得
・佐嘉　御本丸　：佐賀ご本丸（敬意を払う対象）

…など

平出

貴人や敬意を払う相手の呼称や行動を書く位置が文の途中に来るのを避けるため、改行し前の行と高さを揃えて書き出す敬意表現。欠字よりさらに敬意を示す書式。

例）

・今度
御覧被遊之趣：今度（貴人が）ご覧遊ばれるの趣

・是迠蒙
御高恩　：これまで（貴人の）ご高恩を蒙（こうむ）り

…など

参考

―その他の表現―
＜「擡頭」（たいとう）＞
→平出と同様、文の途中から改行するが、前の行よりも一、二字ほど高い位置から書き出す敬意表現。欠字・平出よりさらに敬意を示す書式。

（江口　喬裕）

お知らせ

Information

発行日：平成30年10月

館企画展

大貝彌太郎展

1941年-46年に旧諫早中学校、美術教師として諫早に赴任し、諫早の風景や航空乗務員養成所の生徒等様々な作品を残した大貝の足跡と諫早のかかわりを紹介します。

期　間／12月22日（土）～1月27日（日）
※休館日：毎週火曜日、12月29日～1月3日
午前10時～午後7時※最終入場18:30
会　場／2階企画展示室
観覧料／無料

～芸術の秋、学びの秋～
ぜひ、美術歴史館へお越しください。〈N〉

館講座

館長講座

日　時／11月10日（土）
午前10時30分～12時
内　容／諫早の学校の変遷
その他／受講料無料、事前の申し込み不要

民俗講座

日　時／11月11日（日）
午前10時30分～12時
内　容／こぜんばさん（産婆さん）
その他／受講料無料、事前の申し込み不要

館長講座【講演会】

日　時／12月1日（土）
午前10時30分～12時
内　容／「メディアから見た諫早のあれこれ」
講　師／才木　邦夫（長崎新聞社社長）
その他／受講料無料、事前の申し込み不要

散策ツアー

日　時／11月２４日（土）
午前９時～12時
集合・解散場所／
集合：喜々津駅、解散：諫早駅西口
内　容／古写真を見ながら散歩
申込方法／ハガキ、ファクスまたはメール（bireki@city.isahaya.nagasaki.jp）に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、11月8日（木）までにお申し込みください。
（※当日消印有効）
その他／参加費１００円（保険料、資料代）

（昨年の散策ツアー）

美歴だより　Vol.16
編集・発行／諫早市美術・歴史館　〒854-0014　長崎県諫早市東小路町2-33　TEL:0957-24-6611　FAX:0957-24-6633